

ちいさな 建設

川尻トンネル

今号より、ちいさい建築物や土木構造物をはじめ、「建設」にまつわる身近なものを毎月ご紹介していきます。規模は小さくとも人々の暮らしを支えている。そんな「ちいさな建設」の世界をお楽しみください。



トンネル兄弟

瀬戸内の沿岸を走るJR呉線は、海際に迫る山裾を単線で進み、海景色を臨む風光明媚な鉄道路線だ。三原・広島間は九三キロメートル、全線のやや西寄りに位置する安芸川尻駅のごく近くに、JR線で一番短い「川尻トンネル」がある。全長八・七メートル。

なぜ、この短さか。安芸川尻駅から東側のあたりの地形は小高く、里山の山裾から海側に下っていく緩やかな傾斜地になっている。全線が開通した一九三五年以前から、そこには旧い道が通り、道の下を潜るかたちで短いトンネルが掘られたように見える。

呉線に乗車すると長短多くのトンネルがあらわれる。二〇以上あるかもしれない。安芸川尻駅から四キロメートル東隣の安登駅との間にも、川尻トンネルのほかに三つのトンネルが続き、出たり入ったりするのが楽しい。みなそっくりの顔つきのアーチ型、長短いろいろの「トンネル兄弟」と呼びたくなる。川尻トンネルは上が道路なので、跨線橋では？という見方もあるが、やはりトンネルでよさそうだ。

アクセス 呉線安芸川尻駅から安登駅方面に歩いて3分